

藏爲總第二四七號

記案 昭和十七年一月一日
決裁濟 昭和十七年一月十三日

爲替局長 原口

總務課長 野田

伊東調

爲替持高集中實施細目一部改正ノ件

爲替相場ノ公定ニ伴ヒ從來ノ第三國爲替持高集中實施細目ニ一部改
正ヲ加フル必要生ジタルニ付テハ別紙ノ通改正シ左案(一)ヲ以テ正金
銀行ニ通達相成ルト共ニ左案(二)ヲ以テ日本銀行ニ之ガ屬ヲ送付相成
可然哉

案 (一)

昭和十七年一月一日

爲替局長

橫濱正金銀行副頭取 宛

爲替相場ノ公定ニ伴ヒ曩ニ通達ニ係ル第三國通貨爲替ノ持高集中實
施細目ヲ別紙ノ通改正致シ候條御了承相成度

案 (一)

年 月 日

爲 替 局 長

日本銀行副總裁 宛

爲替相場ノ公定ニ伴ヒ第三國通貨爲替ノ持高集中實施細目ヲ別紙ノ
通改正横濱正金銀行ニ通牒致候條御了承ノ上可然御取計相成煩度此
段及御依頼候也

政府補償第三國通貨爲替持高集中實施細目改正

昭和十七年一月一日以後第三國通貨爲替持高ノ集中ニ付テハ昭和十六年五月二十二日附藏爲總第五三六七號英系通貨爲替取引ニ關スル實施細目並ニ昭和十六年六月二十五日附藏爲總第七二二二號米貨及米貨系外貨爲替取引ニ關スル實施細目ノ規定ニ拘ラズ左記方法ニ依ルモノトス

一、日本銀行又ハ集中勘定トノ出合取引相場ハ賣買共原則トシテ當日ノ公定電信相場（公定相場ナキモノハ大藏省爲替局ヨリ外國爲替銀行ニ通牒セル爲替相場、以下同ジ）ニ依ルコト、但シ政府ノ指示又ハ承認アリタル場合ハ此ノ限ニアラズ。

政府ノ許可ヲ得テ公定爲替相場ニ依ラズシテ取引シタル外貨爲替
ノ集中ニ付テハ前項ニ拘ハラズ原則トシテ該爲替ノ電信引直相場
ヲ以テ之ヲ爲スコト右ノ場合ニ於ケル公定電信相場トノ關係ハ特
殊相場差金ノ項目ヲ以テ整理スルコト

三、外國爲替銀行ハ外貨爲替賣買ニ付顧客ヨリ徴收シタル手数料ヨリ
公定電信相場ニ依ル爲替額ノ萬分ノ二十五ヲ標準ニ政府ノ指示ニ
依リ端數ヲ調整スルコトスル金額ヲ差引キタルモノヲ集中勘定ニ支
拂フコト集中勘定ニ於テハ右ヲ補償料ノ項目ヲ以テ整理スルコト
三、戰爭其ノ他業者ノ責ニ歸スベカラザル理由ニ基キ六、七、八、九、十、
受ケ又ハ豫約金額ノ一割以下ニシテ且ツ金額千圓相當額未満ノ端

數殘高二對シ承認ヲ要セズシテ對顧客賣買豫約ニ原相場ニ依リ取
消シタル場合竝ニ買取手形ノ原豫約又ハ原買取相場ニ依リ償還ニ
應ジタル場合ニ於ケル日本銀行又ハ集中勘定トノ出合取引ニ付テ
ハ前二項ニ拘ラズ左ノ方法ニ依ルコト

原豫約取引日又ハ原爲替取引日ガ

(1) 昭和十六年十二月三十一日以前ノモノニ付テハ従前ノ方法ニ
依リ賣買差金ヲ授受シ

(2) 昭和十七年一月一日以後ノモノニ付テハ原取引日ニ於ケル公
定電信相場ヲ以テ反對賣買ヲ行ヒ原取引ニ付集中勘定ノ徴收シ
タル補償料ハ之ヲ返戻ス

四前項ノ規定ハ本邦銀行在外店舗が大藏省ノ承認ヲ受ケ戦争其ノ他
業者ノ賣ニ歸スベカラザル理由ニ基キ圓爲替豫約ノ取消シ又ハ圓
貨買入手形ノ償還ニ應ズル場合ニ付之ヲ準用スルコト

五集中勘定ハ銀行別ニ各暦月末日トナレル各通貨ニ付賣買セツト
オフノ上差引賣又ハ買越殘高ヲ右外貨ニ對スル圓貨ノ平均相場ヲ
以テ其ノ儘次月末受渡ノ豫約ニ乘換フルモノトシ毎半期末日ニ於
テハ各通貨毎ニ賣買セツトオフノ上差引賣又ハ買越殘高ニ付當日
ニ於ケル公定電信相場ヲ以テ翌月末受渡ノ豫約ニ乘換ヘ平均相場
トノ圓貨差金ヲ受授スルコト

六政府ハ横濱正金銀行（集中勘定）ニ對シ本制度ニ依リ生ジタル外

貨爲替持高ニ關シ公定電信相場ノ變更ニ依リ蒙ルコトアルベキ損
失ヲ補償スルト共ニ公定電信相場ノ變更ニ依リ得ルコトアルベキ
利益竝ニ第二項ニ依ル補償料ヲ政府ニ徵收スベキ旨ノ契約ヲ橫濱
正金銀行ト締結スルコト

橫濱正金銀行（集中勘定）ハ每半期末ニ本改正ニ基キ補償料、特
殊相場差金等ニ關シ其ノ期中ノ收支明細ヲ政府ニ報告スルコト

七、昭和十六年十二月卅一日以前ノ對顧客取引ニシテ昭和十七年一月
一日以後集中勘定ニ出合ヲ求ムル場合ハ取引當時ノ相場ヲ標準ト
スルモ其ノ集中ノ方法ハ本改正細目ニ依ルコト